



元氣とタイムリーな情報を提供する

五十嵐レポート

発行:「町コン」五十嵐 勉 2021年10月11日 第1039号「週刊五十嵐レポート」

後の波が前の波を押し出す

10月1日から緊急事態宣言が解除され、徐々に普通の日常に戻りつつある。しかしコロナ禍で起きた社会変化や技術革新は変わらない。対応できるところが生き残る。

中国では大手不動産会社恒大集団の経営問題が大きくクローズアップされている。第二のリーマンショックか否か。多くの識者は、影響は限定的であると。個人的見解ですが、リーマンというよりもエンロン。非関連多角化で放漫経営の果てに破綻する。恒大集団と同じような企業体は消えていくだろう。多少のクラッシュは起こる。その後新たに成長する企業が出現する。

最近知った中国の言葉、「長江後波推前波、前波死在砂浜上(日本の漢字に変換)」「(长江后浪推前浪、前浪死在沙滩上)。長江の後ろの波が前の波を押し出す。後輩が先輩を乗り越えて立派になることを指す。近年はこれに前の波は砂浜で消える。乗り越えられた先輩が競争原理で淘汰されるという現実を風刺したもの。いわゆる社会における新陳代謝。

10月1日付日経新聞、「激戦ロケット参入」という記事。ホンダがロケット事業に参入。四輪車を皮切りにジェット機などこれまでも相次ぎ新分野を開拓してきた。ホンダの社長の言葉、「当社の名前はホンダ自動車ではない。本田技研工業だ。自動車に限らず、技術で人の役に立つ会社になる」。

「空飛ぶ車」と呼ばれる電動垂直離着陸機や「アバターロボット」の開発を発表。自動車で培った技術を核に事業領域を広げている。「燃焼技術や制御、低コスト化はもともと自動車会社の手の内にある。それを組み合わせていく」。

自動車はガソリン車からEV化や自動運転化。パソコンや家電のように淘汰がはじまる。

自社の強みは何か。掘り下げることによって横展開や事業領域を広げる。小さな会社でも同じことが言える。できれば常に後ろの波であり続けたい。

ちょっと
気になる出来事

10月2日付日経新聞に「かんぼの宿 事業売却」という記事。

日本郵政は保有する「かんぼの宿」の事業を売却すると発表。2022年4月に32施設約88億円で譲渡。20年度の経常赤字は約113億円。2007年の民営化以降の累積赤字は約650億円。

2008年12月日本郵政はオリックスに「かんぼの宿」(70か所)を109億円で一括譲渡すると発表した。当時の鳩山総務相が安すぎると反対し流れた経緯がある(週刊五十嵐レポート平成21年1月9日390号参照)

当時私はオリックスで売却する方がいいという考えであった。

1施設当たりでは今回の方が高い金額になる(2億7500万円>1億5570万円)が、これまでの赤字の累積が約650億円にのぼる。当時売却していればこの累損はない。

トップの経営判断の大事さを痛感。



一口メモ
知識

公に立って行う ②

同人宗(そう)において。吝(りん)なり。

人と志を同じくして協力し合い、一つの物事をなすためには、公の場に立って行わなくてはいけない。

公でオープンな場ではなく、身びいきや、同族以外顧みない偏狭な姿勢で行えば、決して物事をなし遂げることはできない。

「宗」は親戚、身内、同族であり、私的で親密な関係の集まりをいう。同族会社が失敗する要因は、まさに「同人宗において」で、身内ばかりを遇する偏狭さにあるといえるだろう。

「易経一日一言」(致知出版/竹村亜希子)より

●「戦略社長塾東京」小岩校 毎週日曜日・水曜日 午前10時~12時

●「戦略社長塾東京」銀座校、武蔵村山校、豊岡校 開講中。

㈱五十嵐コンサルティングオフィス 〒133-0051東京都江戸川区北小岩6-21-5

TEL03-3659-7703 Fax03-3659-7077 info@igarashireport.com

